

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第3574867号
(P3574867)

(45) 発行日 平成16年10月6日(2004.10.6)

(24) 登録日 平成16年7月16日(2004.7.16)

(51) Int.Cl.⁷

F I

B 6 5 D 35/44

B 6 5 D 35/44

J

B 6 5 D 47/08

B 6 5 D 47/08

H

// B 6 5 D 35/12

B 6 5 D 35/12

請求項の数 3 (全 6 頁)

(21) 出願番号 特願平8-135140
(22) 出願日 平成8年5月29日(1996.5.29)
(65) 公開番号 特開平9-315448
(43) 公開日 平成9年12月9日(1997.12.9)
審査請求日 平成14年2月28日(2002.2.28)

(73) 特許権者 000006909
株式会社吉野工業所
東京都江東区大島3丁目2番6号
(74) 代理人 100076598
弁理士 渡辺 一豊
(72) 発明者 井田 辰春
栃木県那須郡小川町大字小川字愛宕原34
15 株式会社 吉野工業所 那須小川第
二工場 内
(72) 発明者 鎌田 茂夫
東京都江東区大島3丁目2番6号 株式会
社 吉野工業所 内

審査官 川本 真裕

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 チューブ容器

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

頭部(2) に、前後方向に横断する凹部(3) を形成し、該凹部(3) の底面に、天板に透孔(7) を有し、周壁外面の少くとも一部に係止突条(5) と(6) を設けた係合凸部(4) を突設したスクイズ性を有する容器本体(1) と、前記凹部(3) と略同幅で、かつ前記係合凸部(4) に外嵌してアンダーカット結合可能な有頂短筒形状に形成され、頂板(16)を貫通して上下部が該頂板(16)の上下面から突出すると共に、前記容器本体(1) への組付き時に下部が前記透孔(7) に嵌入する注出筒(18)を設けた組付体(11)の後端縁に、ヒンジ部(13)を介して、前記凹部(3) と略同幅で、かつ閉蓋時に該凹部(3) に収納される高さの有頂短筒形状に形成され、頂壁(20)の下面に、閉蓋時に前記注出筒(18)に密に嵌合する密閉筒(22)を垂下設した蓋体(12)の後端縁を連結した比較的硬質な合成樹脂製の蓋部材(10)と、から構成したチューブ容器。

【請求項2】

ヒンジ部(13)を三点ヒンジで構成した請求項1記載のチューブ容器。

【請求項3】

三点ヒンジを、組付体(11)と蓋体(12)の後端縁中央部間を連結する一つのヒンジ片(24)と、該ヒンジ片(24)の両側となる前記組付体(11)と蓋体(12)の後端縁間を連結する、弾性反転により前記蓋体(12)の閉姿勢および開姿勢を自己保持させるための一対の蛇腹状の弾力片(25)とで構成した請求項2記載のチューブ容器。

10

20

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】

本発明は、化粧料や、洗剤等を収納するチューブ容器に関するものである。

【0002】

【従来の技術】

従来のこの種チューブ容器として、頂板に注出筒を立設したスクイズ性容器本体に、この注出筒に嵌脱して注出口を開閉する栓筒を下面に設けた開閉機能部分と、容器本体への組付き機能部分とをヒンジ部で一体に連結した、比較的硬質な合成樹脂製の蓋体を取付けた容器が知られている（実開昭63-67451号公報等参照）。

10

【0003】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、上記従来技術においては、容器本体全体が軟質合成樹脂の一体成形品であるため、内容液注出操作力等の外力の作用により、頂板を含む頭部が弾性変形し易く、このため蓋体による注出口の密封保持が不安定となり易いと云う問題があった。

【0004】

同様に、容器本体の頭部の形状安定性が劣るので、この頭部に係合組付きする蓋体の開閉機能部分の閉状態保持が不安定となり勝ちとなり、このためチューブ容器の格納時とか運搬時等の押圧力により、チューブ容器が不正に開放することがあると云う問題があった。

【0005】

20

そこで、本発明は、上記した従来技術における問題点を解消すべく創案されたもので、スクイズ性チューブ容器本体の頭部の注出口を設けた蓋体組付き部分の形状安定性を高めることを技術的課題とし、もって安定した高い密封性を発揮できると共に、容器本体に対する蓋体の組付きを安定させることを目的とする。

【0006】

【課題を解決するための手段】

上記技術的課題解決する本発明の手段は、

頭部に、前後方向に横断する凹部を形成し、この凹部の底面に、天板に透孔を有し、周壁外面の少くとも一部に一对の係止突条を設けた係合凸部を突設したスクイズ性を有する容器本体を有すること、

30

この容器本体の凹部と略同幅で、かつ容器本体の係合凸部に外嵌してアンダーカット結合可能な有頂短筒形状に形成され、頂板を貫通して上下部がこの該頂板の上下面から突出すると共に、容器本体への組付き時に下部が容器本体の透孔に嵌入する注出筒を設けた組付体と、容器本体の凹部と略同幅で、かつ閉蓋時にこの凹部に収納される高さの有頂短筒形状に形成され、頂壁の下面に、閉蓋時に組付体の注出筒に密に嵌合する密閉筒を垂下設した蓋体と、そして組付体と蓋体の各後端縁を連結するヒンジ部と、から成る比較的硬質な合成樹脂製の蓋部材を有すること、にある。

【0007】

蓋部材のヒンジ部を三点ヒンジで構成するのが良く、特にこの三点ヒンジを、組付体と蓋体の後端縁中央部間を連結する一つのヒンジ片と、このヒンジ片の両側となる組付体と蓋体の後端縁間を連結する、弾性反転により蓋体の閉姿勢および開姿勢を自己保持させるための一对の蛇腹状の弾力片と、で構成するのが好適である。

40

【0008】

【作用】

蓋部材は、その組付体を容器本体頭部の凹部に挿入し、上方から強引に押圧することにより、係合凸部に外嵌してアンダーカット結合し、容器本体に組付けられる。

【0009】

この蓋部材は、比較的硬質な合成樹脂で成形されているので、比較的軟質な容器本体頭部に対して骨材的作用を奏し、この頭部の形状安定化を達成することができる。

50

【0010】

そのため、内容液注出時の胴部押圧操作等によって、頭部が弾性変形する恐れは無くなり、容器本体に対する蓋部材、すなわち組付体の組付き状態が強固で安定したものとなり、容器本体の透孔に対する組付体の注出筒の密嵌入が安定的に維持されることになる。

【0011】

また、閉蓋時においては、それぞれ比較的硬質な合成樹脂材料で成形されている蓋部材の組付体および蓋体に設けられた注出筒と密閉筒との密な嵌合により密閉が達成されるため、その密嵌合状態の保持が強固で安定しており、外力の作用により妄りにその密嵌合状態が劣化する恐れがない。

【0012】

さらに、容器本体の係合凸部に対する蓋部材の組付体の強引な嵌合組付けにより、容器本体の係合凸部は蓋部材の組付体により前後方向から強力には挟み付けられることになり、この容器本体の係合凸部に対する前後方向からの強力な挟み付けにより、容器本体の凹部の両内側面上部が互に接近する方向へわずかに変位する姿勢に保持されることになり、このため凹部の両内側面上部が、閉蓋時の蓋体の両側面に軽く圧接する状態となって、運搬中の引っ掛かり等によって妄りに開蓋することが防止される。

【0013】

【実施例】

以下、本発明の一実施例を図面を参照しながら説明する。

軟質合成樹脂の一体成形品であるスクイズ性の容器本体1は、平断面楕円状に成形され、上端には縮径した楕円状の頭部2が成形されている。

【0014】

この頭部2の上面には、前後方向に横断する凹部3が形成され、該凹部3の底面には、前後面が円弧凸状で、左右面が直線状の有頂短筒形状の係合凸部4が形成されている。

【0015】

この係合凸部4は、その前後面上端にアンダーカット結合用の係止突条5、6がそれぞれ設けてあると共に、天板の前部に透孔7が開設してある。

【0016】

蓋部材10は、組付体11と蓋体12とヒンジ部13とから構成され、比較的硬質な合成樹脂材料により一体成形されている。

【0017】

組付体11は、凹部3と略同幅で、かつ係合凸部4に外嵌可能な有頂短筒形状に成形され、その前後壁の内面下端には、係合凸部4の係止突条5、6に係止する係止突条14、15が設けてある。

【0018】

また、組付体11の主体部分である頂板16の前部には、注出口17を形成する注出筒18が頂板16の上下面から突出した形態で設けてあり、注出筒18の上端外面には係止周条19が突周設されていると共に、注出筒18の下方突出部分は、透孔7に密嵌入するものとなっている。

【0019】

蓋体12は、組付体11と略同幅で、かつ閉蓋時に凹部3に収納され頭部2上面と面一となる高さの有頂短筒形状に成形され、その頂壁20の下面前部に、閉蓋時に組付体11の注出筒18の上部内外面に密に嵌合するシール筒21と密閉筒22とが同心状に垂下設されており、この密閉筒22の内面下端には、係止周条19に係止する係止周条23が突周設されている。

【0020】

組付体11と蓋体12とを連結するヒンジ部13は、本実施例の場合、三点ヒンジで構成されている。

【0021】

すなわち、組付体11と蓋体12の後端縁中央部間を一つのヒンジ片24で連結すると共

10

20

30

40

50

に、このヒンジ片 2 4 の両側となる組付体 1 1 と蓋体 1 2 の後端縁間を、弾性反転により蓋体 1 2 の閉姿勢および開姿勢を自己保持させるための一对の蛇腹状の弾力片 2 5 で連結して構成されている。

【0022】

【発明の効果】

本発明は上記した構成となっているので、以下に示す効果を奏する。

容器本体頭部を横断する凹部に組付けられた蓋部材は、比較的硬質な合成樹脂材料で成形されているので、比較的軟質な容器本体頭部に対して骨材的作用を発揮するので、容器本体頭部の形状安定化を果たし、これにより容器本体に対する蓋部材の組付きを強固で安定したものとする。

10

【0023】

閉蓋時においては、蓋部材の組付体が容器本体に密に組付いた状態で、比較的硬質な合成樹脂材料で成形されている組付体の注出筒と蓋体の密閉筒との密嵌合により密閉が達成維持されるので、外力の作用に影響されることなく、チューブ容器の密閉が強固で安定的に達成維持される。

【0024】

容器本体の係合凸部に対する蓋部材の組付体の強力な嵌合組付きにより、容器本体の凹部の両内側面上部が互に接近する方向へわずかに変位する状態となるため、この両内側面上部が、閉蓋時の蓋体の両側面に軽く圧接することになり、これにより運搬中の引っ掛かり等によって妄りに開蓋することが防止され、高い安全性を得ることができる。

20

【図面の簡単な説明】

【図 1】本発明の一実施例を示す、要部分解斜視図。

【図 2】図 1 図示実施例における、容器本体の平面図。

【図 3】図 1 図示実施例における、蓋部材の平面図。

【図 4】図 1 図示実施例における、閉蓋状態時の要部縦断側面図。

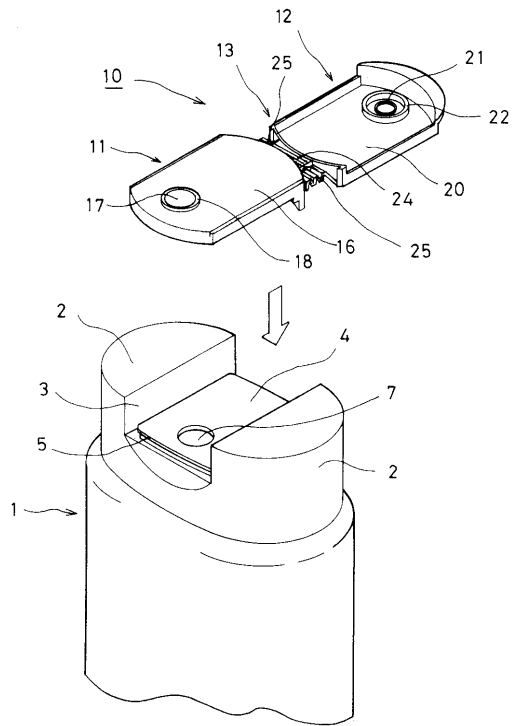
【符号の説明】

- 1 ; 容器本体
- 2 ; 頭部
- 3 ; 凹部
- 4 ; 係合凸部
- 5 ; 係止突条
- 6 ; 係止突条
- 7 ; 透孔
- 10 ; 蓋部材
- 11 ; 組付体
- 12 ; 蓋体
- 13 ; ヒンジ部
- 14 ; 係止突条
- 15 ; 係止突条
- 16 ; 頂板
- 17 ; 注出口
- 18 ; 注出筒
- 19 ; 係止周条
- 20 ; 頂壁
- 21 ; シール筒
- 22 ; 密閉筒
- 23 ; 係止周条
- 24 ; ヒンジ片
- 25 ; 弾力片

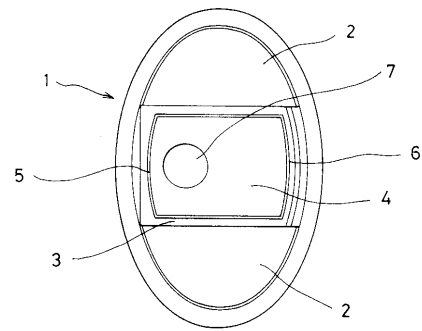
30

40

【図 1】

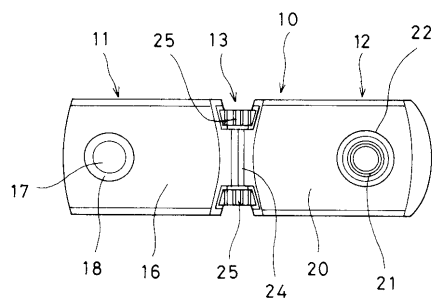


【図 2】

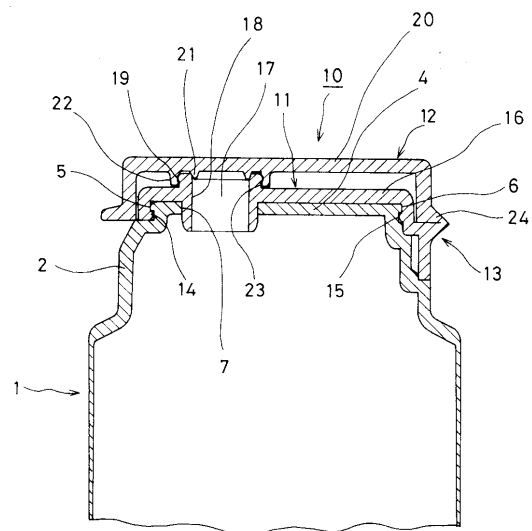


- | | | | |
|------------|-----------|--------------|-----------|
| 1 ; 容器本体 | 2 ; 頭部 | 3 ; 凹部 | 4 ; 係合凸部 |
| 5、6 ; 係止突条 | 7 ; 透孔 | 10 ; 蓋部材 | 11 ; 組付体 |
| 12 ; 蓋体 | 13 ; ヒンジ部 | 14、15 ; 係止突条 | 16 ; 頂壁 |
| 17 ; 注出口 | 18 ; 注出筒 | 19 ; 係止周条 | 20 ; 頂壁 |
| 21 ; シール筒 | 22 ; 密閉筒 | 23 ; 係止周条 | 24 ; ヒンジ片 |
| 25 ; 弾力片 | | | |

【図 3】



【図 4】



フロントページの続き

(56)参考文献 特開平07-267264 (JP, A)
実開平05-072752 (JP, U)

(58)調査した分野(Int.Cl.⁷, DB名)

B65D 35/44

B65D 47/08

B65D 35/12